舞鶴医療センター新病棟開設記念ご挨拶

独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター
院 長 法 里　 高

当院は、明治３４年舞鶴鎮守府の海軍病院として発足し、昭和２０年８月にはソ連、中国、満州からの引き揚げの上陸第一病院に指定され、引揚患者の収容治療、転送の業務を行いました。

昭和２０年１２月には国立舞鶴病院として厚生省に移管され、その後、昭和２４年４月に精神科を新設、昭和５７年４月に母子医療センター開設、平成１４年１０月に臨床研究部設置等機能充実を図り、平成１６年に独立行政法人への移行により国立病院機構舞鶴医療センターとして歩んでまいりました。

今回の中丹地域医療再生計画に基づく病棟建て替え整備で、「脳卒中センター」「周産期センター」「認知症疾患センター」として、京都府北部における病病連携・病診連携を通じて地域医療支援病院としての役割を果たすべく、地域に視点をおいた医療の充実・強化を展開してまいります。

本日竣工を迎えました新病棟は免震構造で地震災害の影響も受けにくい建物になっています。しかし、平成２７年社会問題にもなりましたが、免震ゴム装置の偽装に遭遇し、本来であれば、昨年７月に竣工しておりましたはずが、免震ゴム装置の交換に１年を要しました。

しかしながら、工事期間が１年延びたことにより、７階病棟は「一般病床５０床」を「地域包括ケア病床５０床」に変更し、実施設計で廊下幅も広げることで法的にもクリアーすることになり、さらに、６階病棟は「一般病床５０床」を「一般病床２４床」及び「緩和ケア

病床１５床」の３９床に変更いたしました。現在、平成２９年度を目途に新病棟での緩和ケアを行える体制を目指しております。

新病棟は１階が放射線画像診断棟、２階が手術棟、３階から７階までが病棟となっており、３階から５階までは各５０床の看護単位の一般病棟、６階は緩和ケア病床１５床、一般病床２４床の計３９床、７階は地域包括ケア病棟５０床で、病床数２３９床となります。

また、ＳＣＵ（６床)、ＮＩＣＵ（６床）に加えてＧＣＵ（６床）を設置します。さらに、成人用、小児用の陰圧・陽圧室を併せて整備しました。

１階の放射線画像診断棟に設置する大型医療機器（リニアック、ＭＲＩ（３Ｔ)、血管連続撮影装置、ガンマカメラ（スペクトＣＴ)、Ｘ線ＴＶ、マンモグラフィ、一般撮影装置、３２０列ＣＴ）は全て更新させていただきました。

最新の大型医療機器の導入で画像診断の精度を向上させ、最新の手術室環境にて手術件数の増を図り、NICU にて新たに新生児低体温療法に取り組み、SCU における広域の脳卒中患者の収容を行ってまいります。

さらに新病棟は免震構造で、地震災害にも影響が受けにくい建物であることから将来的には「災害拠点病院」に準じた使命を果たせるよう検討しているところです。

このように充実した機能をあわせ持つ新病棟を開設できたのも、京都府、京都府立医科大学、舞鶴市、舞鶴医師会をはじめ、多くの皆様のご支援、ご協力をいただきましたおかげと感謝申し上げます。

平成２５年４月に私が院長職を拝命した時に「新病棟の完成」及び「外来診療棟の着手」をテーマとして「責任」と「義務」を課しました。そして職員一丸となって「希望」を持って頑張った結果、今日という日を迎えられたと、改めて職員一同にも感謝致します。

これから皆様方から「良い病院になった」と評価して頂けるよう、職員一同が心新たに一層の努力を重ね、業務に励んでまいる所存でございます。

今後ともこれまでと変わらぬご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

平成２８年７月２日